

これからも『東日本大震災』を忘れない!

～民泊・農泊を通じた農業支援～

ドコモ本部は、今年度の、『東日本大震災』を風化させない取り組み』として、国内における新たな社会貢献活動（語り部の口演および派遣 民泊・農泊を通じた農業支援 現地取材活動による統一記事の分会ニュース発行）を展開した。本号では、「民泊・農泊を通じた農業支援」などの活動内容を紹介する。

ドコモ本部は、5月29日から3日間、事務局を含む組合員16人が参加し、福島県喜多方市で「民泊・農泊を通じた農業支援」などの取り組みを行なった。

1日目は、民泊・農泊を行なう心得などについて、参加した組合員に対し学習会を行ない、翌日からの農業支援に向けて準備を行なった。その後、「東日本大震災」の被災者から、当時の状況や現在の風評被害の状況などについて口演があった。

口演では、「私が生まれ育った『双葉郡』は、原発事故により現在も立ち入り禁止区域であるため、4年以上経過した今でも復興の手が加えられておらず、あの時のままの状態であり、正直、見捨てられていると感じている。今でも、『原子力災害』『東日本大震災』の被害を受けた約12万の人たちが、全国各地で仮設住宅等の生活を強いられており、いまだ帰れる見通しが立っていない。私は喜多方市で避難生活を送っているが、喜多



受け入れ農家の皆さんと参加組合員（上）
語り部（遠藤さん）による口演（右上）
農業支援活動・田植えもよう（右下）



方の人々の支援を受けながら、自分の持つ技術や能力を、お世話になっているこの喜多方で生かす努力をして恩返ししていきたいと思っている」と、ふるさとへの思いや避難生活における思いなどが述べられた。

2日目は、参加した組合員が3班に分かれ、3軒の各農家でアスパラガスの収穫などの支援活動を行ない、風評被害に立ち向かいながら、安全でおいしい農作物を育てている現地の人々との触れ合いを通じて「見たこと・聞いたこと・感じたこと」を伝え広めていくことが大切であることを再認識した。

3日目は、福島県南相馬市に移動し、

津波被害を受けた地域の復旧状況や、放射線の影響により、いまだ帰宅困難となっている地域を視察した。参加者からは、「時がたつにつれ、故郷に戻ることが難しくなっている被災地の厳しさをあらためて実感した」といった、福島県の復興の難しさを感じる声が多くあがった。

ドコモ本部は、全組合員に被災地の現状を正しく伝えるため、6月22日の週に全分会一斉に分会ニュースを発行し、被災地の現状を全体化するなど、風評被害の払拭につながるよう取り組みを進めていく。

ド
コ
モ
本
部

ドコモ本部

〒107-0052
東京都港区赤坂2-4-5
国際赤坂ビル19F
☎03-3582-9381
☎03-5114-5444

大盛況！毎年恒例ボウリング大会

北陸総分会・CS北陸分会合同イベント開く



【北陸総分会】北陸総分会・CS北陸分会合同イベントとして、2月に「ボウリング大会」を開きました。北陸地域の組合員の皆さんには、もはや恒例行事となっているボウリング大会ですが、今回も多くの方に参加いただきました。

今年のボウリング大会は、石川・富山・福井の3会場に分けて行なうことで、昨年より17人も多い148人の組合員が参加し、各会場とも職場の仲間と楽しく、そして白熱したプレーが繰り広げられていました。

白熱した戦いは、「ペア」「男子個人」「女子個人」の3部門とも複数の人が



同スコアで並び、大会終了後の集計も大変でした（笑）

皆さんの協力もあって、今年のボウリング大会は大盛況・大成功となりました。好評のイベントですので、来年も北陸の恒例行事の一つとして、開催できるよう頑張りたいと思います。

北陸では、今年度、ボウリング大会以外にも「新春餅つき大会」や「USツアー」などを開いています。多くの組合員との交流を深めていくために、今後も楽しい企画を考えていきたいと思っていますので、引き続き、皆さんの参加をお待ちしています。

（北陸総分会 魚谷良雄通信員）

「民泊・農泊を通じた農業支援」
参加者の声は、7面に掲載

My Photo Album

Vol.212



登山の醍醐味は!?

休日に、同僚たちと登山に行きました。登山の醍醐味はたくさんありますが、何といたっても大自然に触れることができ、おいしい空気をたくさん吸えることです。仕事のことは忘れて自然と触れ合うことで心と体のリフレッシュができます。

頂上に登った時の達成感には本当に素晴らしく、山の頂上から遠くの景色を見下ろす充実感には日常ではなかなか味わえないものです。

ぜひ、皆さんも機会があればチャレンジしてみてください!

CS九州分会 後藤 正人さん

赤坂点描

今、日本人の二人に一人は「がん」にかかると言われている。前、父も「胃がん」を患った。幸いに早期発見・早期治療で回復。定期検査をしているものの、現在孫に会うことを楽しみに元気に過ごしている父の「がん」は、私に「身近な病気」と痛感させ、将来に対する備えを見直すきっかけとなった。六月一日から「安心づくりキャンペーン」を展開中。各分会では「きらら保険サービス」による保険相談会も開催。組合員の皆さんと、その家族の「将来の安心」を考え、見直す機会にしてもらいたい。

（だーすー）

